

第7回 中国圏広域地方計画学識者等会議

前回までの学識者等会議等におけるご意見と対応

中国圏広域地方計画推進室

令和6年11月14日

主なご意見と対応（学識者等会議）

No	発言者名	ご意見（修正等及びその理由等）	該当ページ	対応
1	齋藤委員 （山口大学）	今回追加した 図表 について、 凡例や単位など、分かりやすい表現に工夫 をするとよい。	資料 2 P3 16行目	ご指摘を踏まえ、図表を修正しております。
2	田中委員 （島根県立大学）	移動さえしやすくなれば、 空き家が安いので 、何軒も空き家を持って、自分で改修して、自分の人生の表現の場にすると いった、一步先のライフスタイルが、中国地方だからこそできる し、国交省の出番でもあるそのあたりをもう少し意識してもらえると、より中国地方らしい計画となると思う。	資料 2 P4 10行目	ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。 「人口減少に伴い、空き家や所有者不明土地が増加しており、これらは災害の発生や景観悪化等、生活環境に悪影響をもたらすことが懸念される。 一方で、移住先として空き家を活用するなど、地域資源として役立てることが期待される。 」
3	谷口委員 （一般社団法人中国経済連合会）	「2024年問題」という言葉を計画の中に記載する必要があるのか。 「担い手不足」の記載の中に既に含まれているのではないか。	資料 2 P9 3行目	他圏域のと調整も踏まえ、記載のまま とさせていただきます。 なお、今後も検討を継続し、不要と判断した際に削除いたします。
4	大島委員 （一般社団法人データクレイドル）	「活躍人口」が要所に出てくる。関係人口の拡大、深化の項目より前に「活躍人口」というキーワードが出てくる。積極的な提案であると思われるので、 定義を最初に記載して伝えたほうが良い のではないか。	資料 2 P16 26行目以降	ご指摘の点については、「活躍人口」というキーワードが最初に出てくる箇所での通り記載しております。 具体的な内容については今後別資料でご提示いたします。
5	齋藤委員 （山口大学）	「活躍人口」というイメージについて、より具体性があればよい。 今後投資・KPIにつながるイメージが具体的に示せればよいのではないか。		「この中国圏の魅力やポテンシャルを活かすためには、圏域内の地域に誇りと愛着（シビック・プライド）を持った定住人口を増やすとともに、圏域外の関係人口も含めた中国圏のファンを増やし、人々のつながりを強めることによって、 人口減少下においても個々の力を最大限に発揮し、持続可能な暮らしや経済、安全・安心、環境等における地域課題の解決に向けた社会活動の担い手として活躍できる「活躍人口」の創出が不可欠である。 」
6	鈴木委員 （山口大学大学院）	「活躍」とは何かを最初に触れてほしい。 経済社会活動の活発化、生産に直結しない地域文化や福祉などの社会活動も含まれる。公的などところが担っているところに一般の人が参加することで魅力が出てくる。防災減災の分野で言えば、「平時の防災活動」や「災害発生時の協力活動」など明記されると、災害時に大きな力になる。		

主なご意見と対応（学識者等会議）

No	発言者名	ご意見（修正等及びその理由等）	該当ページ	対応
7	谷口委員 （一般社団 法人中国経 済連合会）	同様に「ネットワーク」というキーワードも重要なコンセプトとなっている。 交通・人・情報など、ネットワークの違いを書き分けできると良い のではないか。	資料2 P17 23行目以降 資料3 P3 32行目以降	どのようなネットワークであるかが不明瞭であった箇所について、以下のとおり記載しております。 「これまでのネットワーク → これまでの 交通 ネットワーク」 （資料2 P17 L23） 「集落間のネットワーク化 → 集落間の 交通 ネットワーク化」 （資料3 P3 L32） 「物流拠点間のネットワーク → 物流拠点間の 交通 ネットワーク」 （資料3 P7 L13） 「多様で強靱なネットワーク → 多様で強靱な 交通 ネットワーク」 （資料3 P7 L14） 「CO ₂ 排出量削減に向けた道路ネットワークの強化 → CO ₂ 排出量削減に向けた 幹線道路 ネットワークの強化」 （資料3 P16 L24）
8	谷口委員 （一般社団 法人中国経 済連合会）	本文の戦略と目標の書き分けが、同じ表現にみえるところがある。 目標には具体的な表現を入れるべきではないか。	資料2 P20 1行目 以降	全体的に表現を見直し しました。
9	神田委員 （呉工業高 等専門学校）	人材のところはキーとなる。これまでは地域の担い手、量的な不足を問題として取り上げてきたが、最近では、企業からミッションを受けた方が地域を活性化するクリエイティブ人材となっているケースも見られる。 地域と企業のシーズ、イントレプレナーが責任をもって取り組むことで、地域の課題解決と企業のビジネスモデルの開発が上手く進んでいくニュアンスの記載がほしい。 記載するとしたら産業の基本戦略のところか。	資料2 P21 37行目 以降	ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。 「 地域の社会課題解決の担い手となり、地域の関係者と相互に連携しながら、ビジネスの手法でポジティブに課題解決に取り組む「社会起業家」や「ローカル・ゼブラ企業」を育成し、持続的な成長を遂げていくエコシステムの構築を目指す。 」

主なご意見と対応（学識者等会議）

No	発言者名	ご意見（修正等及びその理由等）	該当ページ	対応
10	氏原委員 (岡山大学)	地域生活圏形成の話は具体的に数字を持って説明されていてわかりやすい。ただし、拠点の部分についてはイメージできた一方で、その拠点をつなぐ部分が「回廊」「ネットワーク」という言葉で使われていたが、現時点では少し弱い印象。拠点と拠点とのつなぎ方を、きちんと整備していれば拠点は維持されるため、道路をどうするか、鉄路をどうするか、瀬戸内海でいうと航路をどうするか、あとはオンラインでどうするかという部分に対して 拠点と拠点をどうつないでいくのかを明確に書いていただきたい。 （第5回学識者等会議）	資料2 P26 5行目以降	ご指摘を踏まえ、「第1節 中国圏発の地域生活圏形成プロジェクト」において、 4層地域生活圏の各層の役割とつなぎ方 について記載しております。 なお、 国土審議会推進部会において地域生活圏専門委員会を置くこと となっており、当委員会における議論を踏まえながら引き続き検討いたします。
11	谷口委員 (一般社団法人中国経済連合会)	「小さな拠点」というキーワード は、今回の計画の中で大切なコンセプトと考えるが、 具体的なイメージができる記載 を追加できないか。	資料2 P26 25行目以降 資料3 P1 25行目以降	ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。 「第4層の集落生活圏の核となる「小さな拠点」においては、中山間・島しょ部等における地域公共交通や買い物、医療・福祉・介護等の生活サービス機能を維持・確保するため、デジタル技術を活用し、必要な時、必要な場所でサービスの提供を可能にするなどの取組を推進することで、里山・里海などの暮らし・産業と四季折々の自然とが調和した地域づくりを行う。」
12	大島委員 (一般社団法人データクレイドル)	地域生活圏プロジェクトに関連して、四国の事例について紹介する。関係人口・交流人口はいきなり小規模な地域に入るのは難しい。四国では、 一旦、高知市に入って、慣れてきたらさらにローカルな地域に入るという仕組み をとっている。場作り、仕組みづくりで最初の呼び込み先、ハブとなるところがあって、そこから各地域に送り出すモデルもできるのではないか。	資料3 P4 13行目	ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。 「二段階移住の促進等の地方への移住・定住を促進する取組や、副業・兼業、二地域居住等の促進を強化するとともに、大都市圏等へ田舎暮らしの魅力について情報発信を行う。」

主なご意見と対応（学識者等会議）

No	発言者名	ご意見（修正等及びその理由等）	該当ページ	対応
13	森委員 （島根大学）	農業の担い手問題について、中国圏は中山間地域のため特に条件不利地域が多くなっている。 担い手を育成することが難しいのではないかと議論もあり、「担い方」を論じたほうがよいという意見もある 。大規模化や近代化だけではなく、小規模農地、自営農業など、農業を実施すること自体に意味がある。中山間地域の実情に応じた記述があると良い。	資料 3 P10 15行目 以降	ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。 「 また現在の担い手だけではカバーしきれない農地については、兼業農家など多様な経営体が保全・管理を適切に行う重要性が増していることにかんがみ、現在の担い手と多様な経営体の双方の連携の下、一体となって農地の確保が図られるよう後押しを行う。 」
14	齋藤委員 （山口大学）	産業経済について、 地場産業・伝統工芸など歴史文化に根差した部分の産業育成という表現をもう少し追記したほうがよい。	資料 3 P10 23行目 以降	ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。 「（１）地場産業・伝統工芸など歴史文化に根差した産業の育成 地域の産業力強化と雇用の確保のため、各地にある伝統産業や地場産業の活性化、地域資源を活かした新規創業の推進や高付加価値化・ブランド化を図る。また、各地域に幅広く立地し、地域を支える食品産業について、ブランド化や海外展開の促進等により競争力の強化を図る。 このほか、地場産品であるセメントを材料とするコンクリート舗装の使用範囲の拡大や耐久性に優れた粘土瓦の利用促進等により、地場産業の活性化を図る。」
15	鈴木委員 （山口大学 大学院）	中国圏の西の出入り口、関門地域の可能性、ポテンシャルについて具体的に記載できないか。 九州と中国の大きな可能性が秘められている。具体的に記載することでアイデアが出てくるのではないか。	資料 3 P19 33行目 以降	ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。 「さらに、 関門海峡という共通の財産を持つ北九州市と下関市は、古くから密接な関係を持ち、鉄道・航路・道路の多様な交通手段で結ばれ、一体的な生活圏・文化圏・経済圏を形成していることから、より一層の連携のため、災害・事故等発生時の代替性を確保し、観光振興・市民交流など「関門新連携」を推進する。 」

主なご意見と対応（学識者等会議）

No	発言者名	ご意見（修正等及びその理由等）	該当ページ	対応
16	齋藤委員 (山口大学)	他地域連携について、九州方面との連携が関門に集中しているように見える。 <u>リダンダンシーの観点から大分航路や新たな「架橋」も含めて追記して連携を表現できないか。</u>	資料 3 P19 33行目	ご指摘を踏まえ、以下の通り記載しております。 「中国圏は、近畿圏、四国圏、九州圏をつなげる要衝となる圏域である。日本海側と太平洋側の二面を効果的に活用しつつ、内陸部を含めた連結を図る「全国的な回廊ネットワーク」の形成に向けて、日本海国土軸、太平洋新国土軸及び西日本国土軸が相互に連携することで西日本エリアの対流を促進し、シームレスに繋ぐ「西日本回廊ネットワーク」の形成を推進する。 具体的には、3本の東西軸と山陰・山陽を結ぶ格子状ネットワーク及び空港活用による日本海側・瀬戸内側二面活用を推進するとともに、瀬戸内海の航路や中山間地域の鉄道も含めた三海二山の南北連携や、 近畿圏、九州圏との連携強化、架橋やフェリー航路も含めた複数の交通モードによる圏域間のリダンダンシーの確保に向けた 高速交通ネットワークの形成・機能強化を図る。」

主なご意見と対応（首長）

鳥取県知事：8月9日 島根県知事：7月16日 岡山県知事：8月19日
 広島県知事：9月17日 山口県知事：5月29日
 広島市長：6月5日 岡山市長：5月13日

No	ご意見の趣旨（修正等及びその理由等）	該当ページ	対応
1	インフラ整備は活用方法を考慮して行うべきであり、人口減少が必ずしも生活の豊かさを損なうわけではない。 中国圏では地域ごとの個性を活かしたまちづくりを長期的な圏域づくりを進めてほしい。	資料2 P17 1行目	ご意見を踏まえ、「第1章 計画の理念」において、「 地域資源が持つ力を最大限発揮し、 」といった方向性を記載しております。
2	山陰道などの交通ネットワークの充実は観光や災害対応にプラスになる。鉄道の役割も重要であり、 道路と鉄道のネットワークの両立について検討が必要 である。	資料2 P27 2行目	ご意見を踏まえ、「第2節「全国的な回廊ネットワーク」を支える重層的な交通ネットワーク形成プロジェクト」において、以下の通り記載しております。 「広域的かつ重層的な交通ネットワークを形成していく」
3	公共交通の重要性が高まる中、「 地域公共交通再構築 」を交付金に追加したことは 非常に効果的であり、さらに使いやすくすることが重要 である。	資料2 P27 7行目	ご意見を踏まえ、「第2節「全国的な回廊ネットワーク」を支える重層的な交通ネットワーク形成プロジェクト」において、以下の通り記載しております。 「地域公共交通の「リ・デザイン」の観点を踏まえ、分野の垣根を越えた共創や交通DX・GXの推進により、地域における多様な交通ネットワークの機能強化を図るとともに、公共交通の維持・確保を推進する」
4	高規格道路網は中国圏の産業や防災に不可欠であり、ミッシングリンクの解消が急務 である。山陰地域では企業誘致や観光振興が進まず、道路網の整備が重要である。県境を跨いだ経済交流や国土強靱化の観点からも、山陰道や下関北九州道路の推進が求められる。	資料2 P27 5行目 P28 33行目	ご意見を踏まえ、「第2節「全国的な回廊ネットワーク」を支える重層的な交通ネットワーク形成プロジェクト」において、以下の通り記載しております。 「ミッシングリンクの解消や暫定2車線区間の4車線化などを推進する」 また、「総力戦防災・減災プロジェクト」において、以下のとおり記載しております。 「ハード整備とソフト施策が一体となった防災・減災対策の取組を推進する」

主なご意見と対応（首長）

No	ご意見の趣旨（修正等及びその理由等）	該当ページ	対応
5	公共交通事業者は人手不足に直面 しており、公共交通ネットワークが重要なインフラであるにもかかわらず、人口減少やコロナ禍の影響で厳しい経営状況にある。これにより、 路線の減便や廃止が進んでおり、対策が急務 である。	資料 3 P5 39行目	ご意見を踏まえ、「第 2 節「全国的な回廊ネットワーク」を支える重層的な交通ネットワーク形成プロジェクト」において、以下の通り記載しております。 「 人材不足対策として、交通DX・GXによる経営改善を通じた魅力的な事業環境の実現、迅速な運賃改定の実施による早期の賃上げ、安全・安心で快適な働きやすい職場環境を実現することにより、担い手不足対策の取組を推進する 」
6	近年自然災害が頻発する中で、 防災の観点から危険なエリアと安全なエリアの線引き を示していたとだけと動きやすい。	資料 3 P13 1行目	ご意見を踏まえ、「第 1 節総力戦で挑む防災・減災プロジェクト」において、以下の通り記載しております。 「 災害リスクの低い地域への居住誘導等の被害対象を減らす対策、（～中略～）また、浸水範囲と浸水頻度の関係を示した水害リスクマップ等の利活用促進 など、洪水リスク評価実施のためのリスク情報の充実化を図る。」
7	土砂災害危険区域が多い中で、砂防事業では、国と県と市町が連携し、役割分担を明確にして対策を進めることが必要 である。復興だけでなく事前防災対策も強化し、特に人口や資産が集中する区域や重要交通網に対しては、引き続き直轄事業としての実施をお願いしたい。	資料 3 P13 8行目	ご意見を踏まえ、「第 1 節 総力戦で挑む防災・減災プロジェクト」において、以下の通り記載しております。 「 土砂災害対策や山地災害対策、総合的な土砂管理等を推進 （砂防事業、急傾斜事業、広域避難路の整備等）し、 土砂・洪水氾濫対策を加速化する。 」
8	広島市と岡山市を核とした広域的なまちづくりが必要 である。また、地域共生社会を目指し、交通体系を整えて物価を安定させることで、均等なヒト・モノの配分を実現する。これにより、自由な生活の選択が可能な豊かな生活圏を形成することが重要である。	資料 3 P3 15行目	ご意見の趣旨を踏まえ、「第 1 節 中国圏発の地域生活圏形成プロジェクト」の「連携中枢都市圏の形成等の都市間連携の推進」において、以下の通り記載しております。 「 連携中枢都市圏においては、連携中枢都市が圏域全体の発展をけん引するエンジンとしての役割を担うとともに、各市町の強みを伸ばし、弱みを相互に補うことで、それぞれの個性をいかして輝くことができる圏域づくりを推進する 」

主なご意見と対応（中国経済連合会・商工会議所）

中国経済連合会：5月16日 鳥取商工会議所：9月2日 島根県商工会議所連合会：11月29日（予定）
 岡山商工会議所：11月14日 広島商工会議所：6月4日 山口県商工会議所連合会：9月25日

No	ご意見の趣旨（修正等及びその理由等）	該当ページ	対応
1	地方においては、人口流出や移動の問題があるなかで、 魅力的なものが集積し、サービス業を中心として発展する、コアとなる都市の形成 が必要である。	資料2 P26 13行目	ご意見を踏まえ、「第1節 中国圏発の地域生活圏形成プロジェクト」において、以下の通り記載しております。 「中枢中核都市においては、中国圏の経済を牽引する中核となるサービス産業の集積・強化を図る」
2	中国地方への観光客の誘導が課題であり、公共交通機関の機能が不十分で、 地域資源を活かすためには南北のつながりを強化 する必要がある。また、 SNSを通じた情報発信 も重要となる。	資料2 P27 3行目 P28 16行目	ご意見を踏まえ、「第2節「全国的な回廊ネットワーク」を支える重層的な交通ネットワーク形成プロジェクト」において、以下の通り記載しております。 「日本海側・瀬戸内側二面活用や三海二山の南北連携からなる「西日本回廊ネットワーク」の形成を図る」 また、「第3節 連携と対流によるインバウンド及び広域観光促進プロジェクト」において、以下の通り記載しております。 「旅行消費の拡大に繋げていくため、情報発信を圏域が一体となって行う」
3	暫定2車線の高規格道路では重大な事故が発生している。車線数を増やすという話になると有料化の話になるのかもしれないが、 リダンダンシーの観点からも無料で4車線化を進めるべき である。	資料2 P27 4行目	ご意見を踏まえ、「第2節「全国的な回廊ネットワーク」を支える重層的な交通ネットワーク形成プロジェクト」において、以下の通り記載しております。 「圏域内の中枢中核都市や複数の都市間・拠点間移動の機能高質化に資するミッシングリンクの解消や暫定2車線区間の4車線化など、格子状ネットワークの形成に向けて山陰道等の高規格道路の整備を推進する」
4	更なる宿泊客数の増加に向けて、 観光客に回遊してもらう仕組みづくりと来訪のきっかけづくり が重要である。	資料3 P11 24行目	ご意見を踏まえ、「第3節「連携と対流によるインバウンド及び広域観光促進プロジェクト」において、以下の通り記載しております。 「外国人観光客の受入環境の充実化を図るとともに、観光地域支援事業やナショナルサイクルルートの指定によるサイクルツーリズムの促進、中国圏が一体となった情報発信・プロモーション等、圏域内における広域観光を推進」

今後も、多様な意見を聴取するため、学生や起業家との意見交換を実施予定。